AI で作る ウェブアプリ①

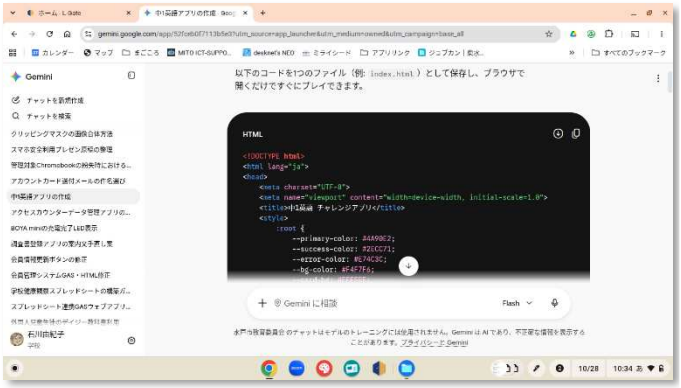
- ✓ Gemini や ChatGPT でコードを作成
- ✓ HTML コードのエクスポート
- ✓ サイトを利用した HTML コード埋め込み
- ✓ サイトの公開と注意点

ここで覚えること

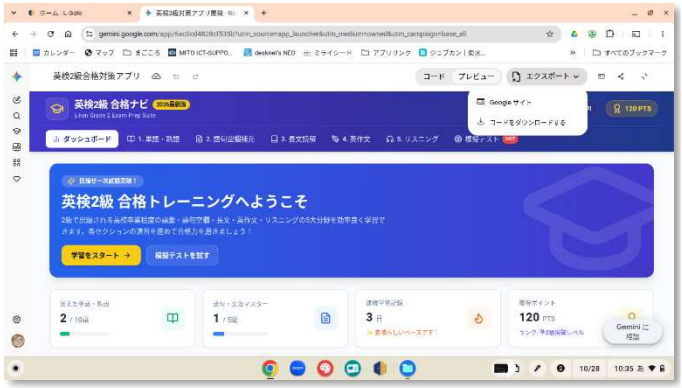
●作成目的の明確化	コードを生成する前に、作成するアプリの目的を明確にしておく。 ・誰が使う（小学 5 年生）」 ・何を作る（単語クイズ・計算ドリル・暗記ものなど） ・何のために使う（自主学習・スキマ時間の定着のため）
●コードの生成・動作確認 Gemini ：Canvas ChatGPT	指示文の工夫 ・「単元名・対象学年」を具体的に書く ・「正解時に音や丸を表示」などの演出を入れる ・1 つの HTML コードとして出力させる
●教材コードの調整と確認	・コードの出力（HTML コード出力・エクスポート） ・エディタで開く（Windows メモ帳やローカルファイル「Text」で開く） ・データの修正 （問題文の追加など直接修正）
●サイトへの埋め込みとアプリの起動	方法 1：プレビューアプリから「エクスポート」→「Google サイト」 方法2：Google サイトを開き、[ページ] [+ページ全体の埋め込み] [埋め込みコード] 方法3：HTML ファイル共有（ローカルから起動すること）
●サイト公開と学校運用の注意点	[配信・アクセス範囲] ・市内のドメイン（mict.ed.jp）のみに公開制限 [学校情報セキュリティ] ・児童生徒の個人情報を扱わない（成績・名簿等は保持せず、完結型ドリル） ・商用ライセンス・著作権の確認を怠らない（画像や文章の著作権に配慮）

操作画面とメニューの見方

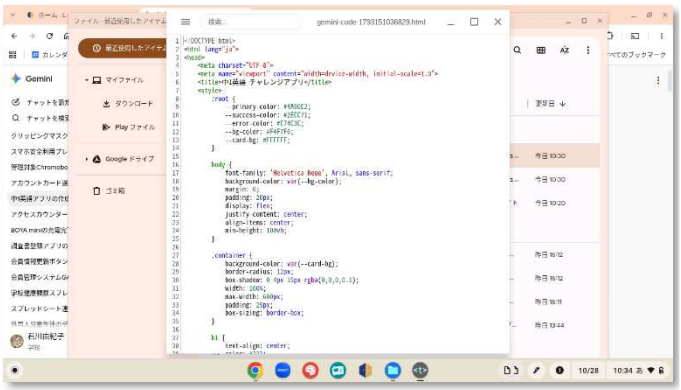
●対話型のコード作成画面



●作成したアプリ画面からコードを出力



●HTML ファイルのコードを直接修正



●Google サイトへのコード埋め込み画面

